

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390800106		
法人名	株式会社 川島コーポレーション		
事業所名	瑞穂やわらぎ苑 2F		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区井の元町205番町の1		
自己評価作成日	平成22年11月30日	評価結果市町村受理日	平成23年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2370800829&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室
訪問調査日	平成22年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模(6名×2ユニット=定員12名)のグループホームで、個々に応じたきめ細やかな介護および支援が可能で、本人や家族等の希望にできるだけ沿った生活環境を整えたり、自立した生活が送れるような関わりを実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、住宅地の中に立地しており、以前、独身寮だった5階建ての建物をグループホームとして改装して利用している。建物の都合上、1ユニットは6人となり、2階部分と4階部分を占有して、合計12人の定員で運営されている。さらにホームでは、入居時に、重度化や終末期について、利用者及び家族とも話し合い、常勤の看護師や主治医と連携をとりながら、職員も研修を重ねて、ホームとして、できる限りの対応をすることとしている。ホームでは、一人ひとりに寄り添いながら、日々努力していることもあり、家族からも信頼されていると言える。また、ホーム管理者が、新たに交代したことで、変えない部分を変えないで、変える部分は変えるように、新しい管理者の下、職員も意見を出し合いながら、より良いサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく暮らしていける事を支援するという基本理念を管理者並びに職員が共有し、取り組んでいる。	「地域でその人らしく暮らしていける事を支援する」という基本理念を掲げており、職員一人ひとりが、日々のケアの中で、どのように対応すべきか確認しながら、実践できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の加入でお祭りにも参加し、利用者の散歩等近隣の方々より気楽にお声掛けを頂いている。	町内会に加入し、地域との交流を持つように努めている。ホームでは、秋まつりに参加したことから、地域住民と顔馴染みになり、買い物や散歩の途中で気軽に挨拶を交わすようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者との外出時(買い物、散歩、病院)状況に応じた行動で、地域の人々にも理解を得るように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者、家族等が管理者、職員民生員等に意見、要望を外部者に表して頂き運営に反映させている。	会議は2か月ごとの開催である。民生委員や家族からの要望や意見も出され、その都度検討し、ホームの運営につなげるように、地域包括支援センターからの提案にも、実践に向け取り組んでいる。	今後に向け、地域・行政への係わりについて、会議の中で、内容を検討したり、充実・実践に向けて努力されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当等に事業所のサービスの事情を相談し、協力関係を築くように取り組んでいる。	今年度は運営法人の変更があり、さらに管理者及び計画作成担当者が交代したこともあり、市町村へ出向き、運営に関する連絡や相談を含め、今後に向けての指示を仰ぐこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および全職員が身体拘束について学び正しく理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	ミーティングで、スピーチロックスも含め、身体拘束について話し合っている。夜間にやむを得ず落下防止の為にベッド柵を家族の同意の上で行うが、基本的に身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待は絶対あってはならないという認識の元ケアをし、職員同士で注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、後見人制度については理解をしているが、必要な利用者がいない為、現時点では活用はしていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、事業者の制度について利用者の家族等に十分な説明を行い、疑問点を尋ね理解、納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員に発言できる機会を常に設け、ミーティング等を通じ検討し、速やかに運営に反映する体制を取っている。	家族からは、マツサーン受診の件や衣類・足の浮腫について等、意見や要望が出され、検討し対応している。また、家族の訪問時やアンケートから意見・要望を取り入れ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は運営に関する職員の意見や提案を聞く機会をミーティングを通じて設け、話し合いを経て運営に反映させている。	定例会議及びカンファレンスにおいて、管理者や看護師は、シフトの交代・利用者の対応の提案を聞き入れたり、デンタルサポート・認知症等のスキルアップ及び外部研修参加の職員体制を考慮している。	運営法人の変更や管理者や計画作成担当者の交代もあり、運営上の見直しもあるようである。今後に向け、職員からの意見も取り入れながら、より良いホームを目指すことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理や職員がやりがいや向上心を持って働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の特性を把握して、内外の研修を受ける機会を与え職員の能力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者、職員が、介護実習現場として施設を提供し、介護サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際、管理者又は、職員が利用者の言葉を傾聴しコミュニケーションを通して、安心していただけるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入にあたり、家族等に心配事や、困っている事等を、十分聞き取り、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時、本人と家族等が必要している支援に近づけるよう、他のサービス利用も含めた柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の趣味や嗜好等に関する会話の時間を作り、互いに共感できる場面を持てるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族との連絡を密接にとりつつ、本人と家族の絆を大切にしながら共に協力して本人を支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の馴染みのある場所へお連れする事は出来ないが、本人のこれまでの暮らしや経験を大切にし、自宅への外泊や本人の望むサービスの提供に努め、馴染みの関係が途切れないようにしている。また、家族以外の方の面会も来られている。	利用者が面会を切望した方との面会について、家族や知人の協力で実現につなげたり、家族の来訪時にお墓参りに行かれる方もある。また、年賀状などの手紙を書くことの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、共用ペース等に配慮して、利用者同士が関わり合い、かつ支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後、家族からの相談や支援を求められたことは無いが退去される際には今後の経過や相談に応じる事はお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握し、また困難時な場合は、本人の立場に立って検討している。	職員は、利用者の日常の言葉や顔色、仕草、動作等も捉えながら、その方の思いや意向を読み取るように努めている。また、入居後、しばらく定期的に自宅で過ごして頂きながら、徐々に落ち着いてもらい思いを聞き取る工夫も行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を大切にし、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め、馴染みの暮らしが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの表現出来ない思いも、観察し一日の過ごし方・心身状態・残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護サービスのあり方やケアプランについて、本人・家族・必要関係者と十分に話し合い、各々の希望や要望にできるだけ沿った計画を立てる。	介護計画は、職員が記録する支援経過及びモニタリングを参考に、定期的に行われるカンファレンスやミーティングでの話し合いも加えながら、さらに本人や家族からの意見要望を取り入れて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録・申し送り等を基に職員間で情報を共有し、介護サービスの実践・介護計画の検討修正に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応し、柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている民生委員・地域包括センター職員・地域住民等と協働し安全で、豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医による月2回の往診を実施。利用者にとって最も適切な医療を受けることができるように支援している。	月2回、提携医による往診には、看護師も同席して、日常生活の状況報告をした上で、注意点の指導を受けるようにしている。また、入居以前からの医療機関への受診は、家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関わりから気づいた点を、看護師に報告・相談している。看護職はこれらの情報を受け、個々に適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、安心して治療を受けられ、なるべく早期退院できるよう、病院関係者や家族との情報交換に努めている。またそのような場合に備えて、病院関係者との関係づくりを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に向けて、家族や親族の方との話し合いを早い段階から行い、事業所で提供できるサービスを説明している。また看取りまでのケアにも対応している。	ホームにおける医療行為には限界もあるが、ホームとしてできる限りの対応をすることとしている。職員はホームとしての方針を共有しながら、看護師を中心に、看取りケアに取り組めるよう内部研修を重ねるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えて、全職員が応急手当やマニュアルを把握し、万が一の緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等の災害時に備え、全職員は昼夜を問わず利用者が避難できる方法を定期的に実地している。また、地域住民や消防署等の協力体制を築いている。	今年度は、避難訓練を3回行い、夜間を想定した訓練も実施し、避難場所や手順等について、検討を行った。また、スプリンクラーは1月設置予定である。なお、飲料水や食糧については、1週間分備蓄している。	利用者が2階と4階に居住という環境下にあるため、緊急時の対応に困難が予測される。今後に向け地域住民の協力を得ながらの避難訓練の実施に努力されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、全職員が自尊心を傷つけたりプライバシーを損ねたりしない言葉遣いや対応をしている。	職員は、必ずノックして室内へ入り、扉を閉めて対応したり、トイレ誘導時には、他の利用者に気付かれないように促している。また、食事の際の席を一人を望む方には、その思いを尊重した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の希望や思いを伺い、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、本人のペースを大切に、その人らしい生活を送ることが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の方に来て頂き、希望通りのカット、顔そり、染めパーマが出来る。また、苑外への美容室に行く事もでき、衣類やお化粧品品の買い物も自由にする事が出来る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事が出来るように、利用者と職員と一緒に食材の買い物・簡単な調理・配膳・後片付け・食器の洗い等をしている。	献立は利用者の希望も聞きながら、一週間分作成して、前日に職員と食材購入に出かけている。食事の際に、家族が持参した本人の好きな童謡のテープを聞きながら、ゆっくり食べている人もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの必要とされる食事量・栄養バランス水分量が、1日を通して十分に確保できるよう、個々の健康状態や力量・習慣に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔を保つため、毎食後一人ひとりの口腔状態に応じた、口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄習慣やリズム・脳力を活かし、排泄の失敗やおむつ等の使用を減らし、トイレでの排泄や自立排泄に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により、排泄パターンをつかみ、紙オムツを減らす努力を行っている。さらに、排泄の失敗時にも、その人の尊厳を大切にして、さりげなく支援を行っている。また、排泄は各居室のトイレの使用が可能である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその影響を理解し、運動の働きかけや食材の工夫等、一人ひとりに応じた対応と予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で、日時を決めるのではなく、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。	毎日お風呂を準備し、失禁時等の際は、随時可能である。現状、基本的に冬季は週2回、1日2名が、ゆっくり入浴を楽しめるようにしている。入浴時間については、夜間を除き、柔軟に対応できる体制に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況・状態に応じて、休息や安眠の確保を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の種類・目的・その効果・副作用・用法・用量について、職員は理解しており、使用の際には注意を払い服薬支援をし、服薬後の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びを抱けるような暮らしのために、一人ひとりの生活歴や能力を活かした役割、嗜好品・楽しみごと・気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節や体調にもよりますが、近所への散歩、買い物等の外出に対応している。また普段行けない場所への外出を希望された場合は、本人の希望を把握し、家族や馴染みの人々と、協力しながら外出が出来るよう支援をしている。	ホームでは、教会へ家族と行く人、決まった美容院、散歩へ行く等の外出支援を行っている。ランの館、以前住んでいた家へ行く等、職員は本人の希望に添えるよう、シフトを工夫しながら努力を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を所持する大切さを理解し、一人ひとりの希望や能力に応じて、お金の所持・使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等に電話を掛けたり、自由にお話したり、できるよう電話の解放、取継ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、壁面の飾り、水槽、生け花など四季折々の季節感を取り入れ、工夫をしている。	ホーム内は、コンパクトな構造であるが、日あたりも良く、寛げる空間である。また、ホームオリジナルマークのちぎり絵を全員で作し、壁に飾られている。そのピンクと薄緑の色使いの天使の額縁絵は、気持ちが和らぐ雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でのそれぞれの居場所を設け、利用者同士で思い通りに過ごせる様な工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを使いやすく居心地がよく、過ごせる配置の工夫をしている。	以前使用していた、テレビ、椅子・パッチワーク等を持ち込み、人形に子供の名前を付けている方もいる。さらに、ミニタンスの上には、化粧水やマニキュア等も置かれ、本人が楽しく寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、一人ひとりの理解力・残存能力を活かして、出来るだけ自立した生活が、送れるような、環境づくりを工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 瑞穂やわらぎ苑

目標達成計画

作成日: 平成23年 2月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	運営推進会議を活かし、実践に向けて努力して欲しい。	構成員の増員	広い分野からの増員に努める	6ヶ月
2	35(13)	災害時の地域との協力体制や従業員の訓練が徹底されていない	消防署の協力にて非難訓練を実施	町内会議に参加、苑の状況を伝え、消防訓練の参加や協力を求める。	4ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月